



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧師 : 杉村 幸 (日本語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630



◎石叫 ■ 「ぶどうの木」

オレンジ郡教会で「ユダヤ的見地からみた聖書」の講義をして下さっている A T 師の、ある日のメッセージである。目からうろこのような内容である。ヨハネ福音書の十五章の冒頭に有名な「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながらっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりぞぎ、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいなさるのである」という主イエスのお言葉がある。ここでのわたしとは主イエスのことであり、父とは農夫である神のことである。実を結ぶために手入れをするというのは分かる。大きな実を实らせるために農夫は、そんなに切って大丈夫だろうかと思うほど大胆に鋏を入れる。それによって大きな甘い実が産み出されてゆくからである。ところがである。実を結ばないものは、天の父がこれを取り除くというのだ。これは怖い言葉である。クリスチャンになって実がならなかったら、取り除くというのであるから、他人事ではない。英訳では *cute off* とか *breaks off* とか訳されている。

一方、原語のギリシャ語では「アイロウ」と言う言葉で、「持ち上げる」とか「引き上げる」という意味がある。同じ言葉がマタイ福音書十四章にあり、五千人の給食の後で十二のかごに「取り上げた」という言葉と同じである。ぶどうの木が苗から実がなるまでには三〜四年の歳月がかかるという。その間、農夫は心血をそそいでぶどう園を歩き、手入れをする。生えたばかりの枝というのは、そのままにしておくくと垂れ下がり、地面に沿って伸びるという。だが、そのような枝は実を結ばない。しかも、葉は土にまみれ、雨が降ると泥だらけになり、うどん粉病になり、使い物にならなくなってしまう。だが、農夫は枝を切り取るなどというとはしない。水の入ったバケツを持ってぶどう園を歩き回り、その枝を持ち上げて、よく洗い、棚の上に乗せる。そうすると、ぶどうの木は再び元気になり、また成長するようになるというのだ。

父なる神は私たちが多くの実を得るために、日夜気を配っておられる。枝が地を這うようになって、神は投げ捨てたりはしないで、むしろそのような枝を持ち上げてはきれいに洗って手入れをし、再び元気にして下さるのである。

ぶどうの木である主イエスに繋がっている限り、主はあらゆる方法を駆使して枝である私たちに豊かな実を得させようとしておられるのである。原語で「アイロウ」と言うが、まさに主の「愛労」のゆえに私たちは生かされている。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」  
 オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

